

自然教育園の動物目録の追録と 稀種動物の目撃記録 (15)

久 居 宣 夫*

Notes on newly or rarely observed animal species
in the Institute for Nature Study (15)

Nobuo Hisai*

は じ め に

今回は、2004年1月～2004年12月に新たに生息が確認されたり、目撃された種あるいは前報(久居, 2004)までに記録がもれた種について報告する。稀種については、「動植物目録」(国立科学博物館附属自然教育園, 1984)中で、r:「稀」、または(r):「古い記録はあるが、現在未確認の種」とされている全ての種を対象にしたが、これら以外にも最近特に個体数や目撃記録が著しく減少した一部の種も対象とした。

なお、日付は目撃あるいは捕獲した西暦年月日を、以下目撃または捕獲地点及び目撃者、捕獲者名をそれぞれ示し、氏名のない場合は著者の記録によるものを示す。

本報告をまとめるにあたって、同定をいただいた元大阪府立大学教授の黒子浩氏、国立科学博物館動物研究部の小野展嗣氏、神奈川県環境科学センターの石綿進一氏、また、日頃より貴重な情報を提供してくださった下記の方々に感謝の意を表する次第である(50音順、敬称略)。

大澤陽一郎(YO), 奥津励(RO), 桑原香弥美(KK), 三枝近志(CS), 菅原十一(TS), 須田研司(KS), 須田真一(SS), 濱尾章二(SHM), 矢野亮(MY), 吉井三恵子(MYO), 吉野由美子(YY)

追 録

Arthropoda 節足動物門

Arachnida 蛛形綱

Coelotes insidiosus L. Koch シモフリヤチグモ(クモ目タナグモ科)

2004.3.10 インセクタリウム脇水槽 1♀ MY(小野展嗣氏同定)

上記の水槽(図1参照)の水底を歩行していた個体を矢野が捕獲した。

本種は、人家近くの建物の床下や石垣の隙間、下水のマンホールなどに生息し、管状の巣を作る(千国, 1989)。本種のように水中や水面を歩行する習性を持つクモにはハシリグモやコモリグモ類

*国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Science Museum

でも知られている (八木沼, 1974)。

本種は, 皇居 (小野, 2000) のほか日比谷公園でも採集されており, 本園でも生息の可能性がある種として挙げられている (小野・新海, 2001)。分布は北海道～九州である。

Insecta 昆虫綱

Cloeon sp. フタバカゲロウ属の一種 (カゲロウ目コカゲロウ科)

2004.9.9 水生植物園 KK (石綿進一氏同定)

水生植物園で数個体の幼虫が採集された。これまでにカゲロウ目の記録は全く行われていない。

本種はフタバカゲロウ *C. dipterum* と考えられるが, 腹部腹面の模様が若干記載と異なる部分があり精査する必要がある (石綿, 私信)。そのため, ここでは上記のように記録しておく。日本産のフタバカゲロウ属は現在7種が知られ (石綿, 2002), そのうち既知の幼虫は2種である (御勢, 1980)。

Stigmella hisaii Kuroko キオビシイモグリチビガ (鱗翅目モグリチビガ科)

本種はスダジイに寄生する潜葉性小蛾類の一種で, 本園で得られた標本を基に黒子浩氏によって新種として記載された (Kuroko, 2004)。

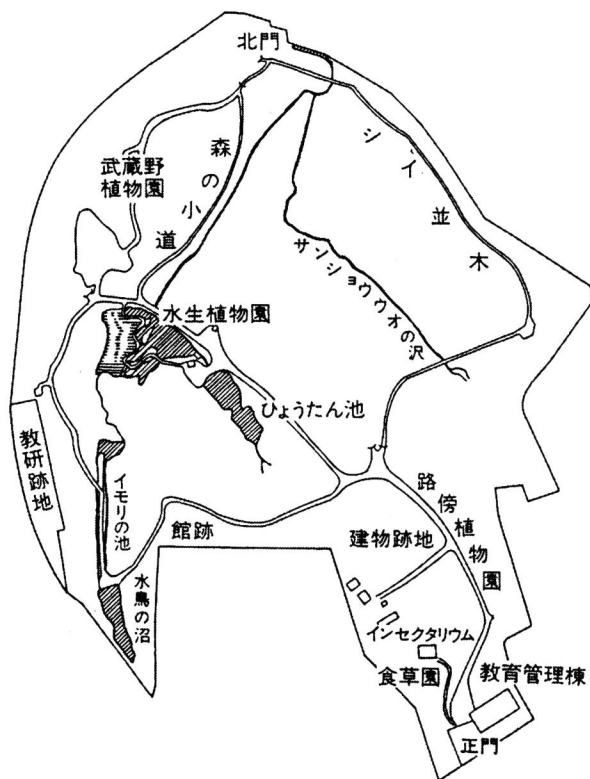


図1 自然教育園概略図

本種は卵や食痕の形状などから1975年ごろにはその存在は知られていたが、園内で成虫が得られたのは1980年以後、飼育下では1986年になってからである。スダジイにはかつて東京を中心に大発生した1化性の別種シイモグリチビガが知られているが、本種は下記のように2化性(推定)で発生数もきわめて少ない。

本種の生活環は、越冬世代では6月下旬に産付された卵は秋まで休眠した後、孵化して葉内に潜入する。幼虫は秋～翌春に葉肉を摂食し、十分に成長すると3月中旬ごろから地上で蛹化し、成虫は5月中旬～6月上旬に出現する(久居, 1987)。この越冬世代の生活環はシイモグリチビガの生活環(久居, 1979)とほぼ同じである。

一方、第1世代の卵は休眠せず、産卵後数日で孵化する。幼虫の成長は越冬世代と比較して著しく速く、室内飼育では孵化後約3週間で蛹化のため葉内から脱出した。この世代の蛹および成虫は得られていないが、越冬世代の卵が6月下旬ごろからスダジイの葉面に産付されていることから、6月中旬～7月上旬には羽化する推定される。分布は本州、四国と考えられる。

なお、本種の形態的特徴や生活史、分布、発生状況などについてはキオビモグリチビガの仮称(*Stigmella* sp.)で詳細に報告されている(久居, 1987)。

Vespa crabro Linnaeus モンスズメバチ (膜翅目スズメバチ科)

2004.6.27 水生植物園; 7.1 水生植物園; 7.6 水生植物園

水生植物園に設置した調査用のトラップで捕獲された。本種は、昆虫の中でも特にセミ類を好み、また、ヤンマ類や中型のトンボもよく捕獲する(松浦, 1995)。

分布は北海道～九州の平地や低山地であるが、北海道以外では近年減少する傾向があり、産地は限られることが多いという(松浦, 1995)。

稀 種 の 記 録

(1) 昆 虫 類

Lestes temporalis Selys オオアオイトトンボ (蜻蛉目アオイトトンボ科)

2004.11.9 森の小道入口 KS

本種は、2000年までは水生植物園で毎年のように見られたが(須田, 2002)、最近ほとんど目撃されなかった。

Aeschnophlebia longistigma Selys アオヤンマ (蜻蛉目ヤンマ科)

2004.7.6 水生植物園 KS et SS

本園では、昨年初めて記録されたヤンマで、今回も水生植物園のヨシ群落で目撃された。

Rhyothemis fuliginosa Selys チョウトンボ (蜻蛉目トンボ科)

2004.7.11 食草園 MY; 7.28 水生植物園 YO

園内では時々見られる稀なトンボで、近隣地域からの一時的飛来と考えられる。最近の記録では1998年および2000年(須田, 2002)、1992年(久居, 1993)がある。

Cryptotympana facialis facialis (Walker) クマゼミ (半翅目セミ科)

2004.7.31 正門前 MY ; 8.2 森の小道入口 YO ; 8.27 正門前 ; 8.30 教育管理棟付近 ; MY
O

Graphosoma rubrolineatum (Westwood) アカスジカメムシ (半翅目カメムシ科)

2004.6.24 あずまや付近

本園では、昨年初めて記録されたカメムシで、前回とほぼ同じ場所で目撃された。あずまやに隣接する水生植物園にはセリ科のノダゲが多く生育するので、同所で繁殖している可能性がある。

Acanthosoma labiduroides Jakovlev ハサミツノカメムシ (半翅目ツノカメムシ科)

2004.8.1 三叉路付近 1♂

個体数はきわめて少ないが、稀に見られる。本種を含むツノカメムシ類の目撃例が最近多くなった。

Parachauliodes japonicus McLachlan ヤマトクロスジヘビトンボ (脈翅目ヘビトンボ科)

2004.5.18 水生植物園付近 KS ; 5.26 サンショウウオの沢 KS ; 6.2 サンショウウオの沢 KS
S ; 6.29 サンショウウオの沢 KS

幼虫は丘陵地の細流や池沼の水際などに生息し、本園ではおもにサンショウウオの沢で見られる。

Atrophaneura alcinous alcinous (Klug) ジャコウアゲハ (鱗翅目アゲハチョウ科)

2004.4.22 正門前 1♂ KS

正門前に植栽されたサツキに飛来した個体が目撃された。

本種は「動植物目録」(国立科学博物館附属自然教育園, 1984)に初めて登載されたが、これは桜井他(1972)の記録によるもので、1965年に食草園にウマノスズクサを植栽して本種を放したものが、その後数年食草園で繁殖したものの、1971年にウマノスズクサが枯死してからは生息していないと記述されている。このことから、本種は園内に生息していたあるいは飛来した個体の記録とはいえない。

したがって、今回の記録が本来的には初記録ともいえる。なお、本種は皇居にはふつうに生息しているが(久居他, 2000), 本園には現在ウマノスズクサが生育していないことから、今後も繁殖する可能性はない。

Papilio memnon thunbergii Siebold ナガサキアゲハ (鱗翅目アゲハチョウ科)

2004.5.7 路傍 1♀ KS ; 5.11 食草園 1♀ SHM ; 5.12 正門前 1♂ ; 6.29 マツ林前路傍 1♂ ; 7.11建物跡地 1♀ ; 7.15 食草園 1♂ ; 7.21 食草園 1♂ ; 8.2 三叉路 2♂ ; 8.27 正門前 1♀ ; 10.2 建物跡地 1♀ SHM

本園では昨年初記録されたアゲハで(久居, 2004), 今回は、上記のように雌雄とも多くの個体が目撃された。特に、5.11は食草園のカラタチに産卵していた記録で、その後も雌が飛翔しているのが目撃されていることから、園内で繁殖し定着する可能性もある。

Papilio machaon hippocrates C.et R.Felder キアゲハ (鱗翅目アゲハチョウ科)

2004.4.14 水生植物園 3exs YO ; 4.16 水生植物園 KS ; 4.22 水生植物園 CS ; 4.25 水生植物園 ; 6.24 水生植物園

ここ数年、水生植物園のノダケに卵および幼虫が見られ、本園での繁殖、定着は確実である。

Anthocharis scolymus Butler ツマキチョウ (鱗翅目シロチョウ科)

2004.4.1 水生植物園 CS ; 4.3 水生植物園 3exs YO ; 4.7 食草園 2♂ ; 4.11 水生植物園 2♂ KK, 食草園 2♂ 1♀ ; 4.15 食草園 2exs MY, 水生植物園 1♂ ; 4.16 路傍植物園 1♀ KK ; 4.17 水生植物園 2♂ KK ; 4.18 食草園 1♂ KK

2002年以後園内で再見されるようになり、園内各所で複数個体が頻繁に目撃された。

Colias erate poliographus Motschulsky モンキチョウ (鱗翅目シロチョウ科)

2004.7.21 水生植物園 1♂ ; 9.16 水生植物園 1♀

個体数は少ないが、ここ数年毎年のように目撃され、園内で繁殖し定着している可能性が大きい。

Lycaena phlaeas daimio (Matsumura) ベニシジミ (鱗翅目シジミチョウ科)

2004.6.24 食草園 ; 7.11 食草園 MY

稀に食草園などで見られる。

Lampides boeticus (Linnaeus) ウラナミシジミ (鱗翅目シジミチョウ科)

2004.10.7 水生植物園 MY

Narathura bazalus turbata (Butler) ムラサキツバメ (鱗翅目シジミチョウ科)

2004.7.23 建物跡地 MY ; 8.22 食草園 1♂ MY

2002年以後毎年上記の場所付近で目撃される。園内での越冬は明らかではない。

Narathura japonica japonica (Murray) ムラサキシジミ (鱗翅目シジミチョウ科)

2004.3.10 食草園 MY ; 4.12 路傍植物園 MY ; 6.29 路傍植物園 ; 9.9 三叉路付近路傍 ; 9.15 正門前 ; 10.17 食草園 ; 11.10 正門前 ; 11.28 教研跡地 MY ; 12.25 食草園 YO
今回は例年になく、早春から冬まで多くの目撃された。

Japonica lutea lutea (Hewitson) アカシジミ (鱗翅目シジミチョウ科)

2004.5.15 路傍植物園 MY ; 5.25 正門前 2exs ; 6.4 正門前 1ex

1999年以後、毎年ではないが複数個体が目撃されており、園内で繁殖および定着しているものと考えられる。

Antigius attilia attilia (Bremer) ミズイロオナガシジミ (鱗翅目シジミチョウ科)

2004.5.16 正門前 ; 7.21 森の小道出口付近

本種は例年5月中旬～6月中旬に目撃されるが、今回上記のようにかなり遅い7月下旬に比較的新

鮮な個体が見られた。

Rapala arata (Bremer) トラフシジミ (鱗翅目シジミチョウ科)

2004.4.6 路傍植物園 MY ; 4.7 食草園 ; 4.10 路傍植物園 ; 4.11 食草園 ; 4.18 食草園, 建物跡地, 水生植物園 各1ex ; 5.8 正門前 ; 6.3 水生植物園付近 MY ; 6.4 樹木園付近路傍 SHM; 6.10 水生植物園 KS; 6.15 食草園, 建物跡地, 三叉路 各1ex ; 6.16 園内各地 >30exs KK; 6.18 園内各地 >15exs; 6.29 建物跡地 ; 7.13 食草園 1ex

本種は, 2003年にも例年になく多くの個体が目撃されたが, 今回も多くの目撃情報が寄せられた。特に, 今回は夏型の個体が園内全域で, 時として30個体以上が観察され, 本園としては過去最多の発生数を記録した。

Curetis acuta paracuta Nicéville ウラギンシジミ (鱗翅目シジミチョウ科)

2004.8.7 正門前 ; 10.17 インセクタリウム付近 2exs; 12.5 樹木園 1♂; 三叉路 1♂

Libythea celtis celtoides Fruhstorfer テングチョウ (鱗翅目テングチョウ科)

2004.3.28 食草園 ; 4.11 食草園 ; 7.4 食草園

Parantica sita nipponica (Moore) アサギマダラ (鱗翅目マダラチョウ科)

2004.5.12 サンショウウオの沢 SHM ; 6.4 三叉路付近 MY ; 9.24 三叉路付近 ; 9.30 三叉路付近 SHM ; 10.6 イモリの池 MYO, 建物跡地付近路傍 YY ; 10.13 武蔵野植物園

これまで, 本園では飛来個体の目撃記録であった。しかし, 10月13日に武蔵野植物園と森の小道出口の中間に生育するキジョランに本種特有の食痕 (図2) とともに若齢幼虫が3個体発見され, 本園で初めて繁殖が確認された。これらの幼虫は11月25日までは順調に発育したが (図3), その後, 11月29日に2個体, さらに12月3日に1個体となり, 12月5日には全く見られなくなった。幼虫が消滅した原因については不明である。

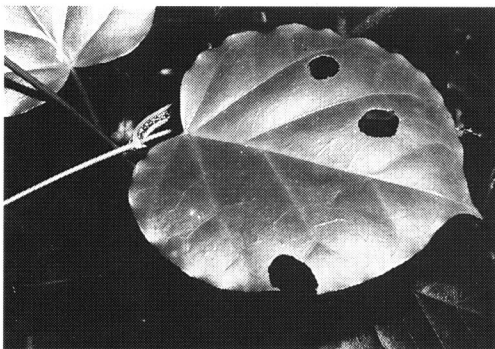


図2 幼虫の食痕 (2004.11.29)

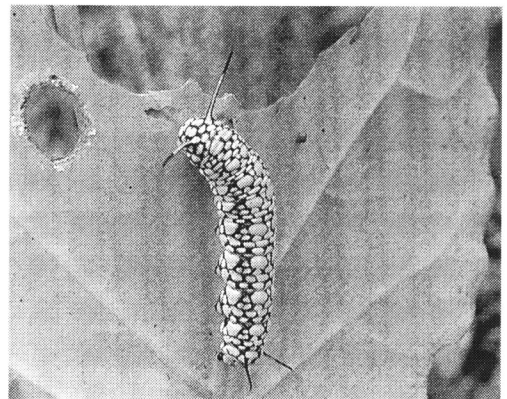


図3 キジョランに付くアサギマダラの幼虫
(2004.12.1 吉野由美子撮影)

なお、本園には本種の食餌植物のガガイモ科はコバノカメメヅルのみ水生植物園に生育しているが、幼虫は確認されていない。そして、キジョランは2000年春までは記録されておらず(萩原他, 2002), 著者と矢野が3株生育しているのを確認したのは2003年秋である。おそらく2001年以後に風によって散布された種子が同所で発芽し定着したものと考えられるが、経緯は不明である。これらのキジョランは2004年11月末にはそのうちの1株は高さ30cm, 2株は1.5m程に成長し、このほか武蔵野植物園でも約1mに成長したキジョランが矢野によって見つけられている。

Argynnis paphia tsushimana Fruhstorfer ミドリヒョウモン (鱗翅目タテハチョウ科)

2004.8.19 物語の松付近路傍 1♀ MY

園内では水生植物園で稀に見られる。

Argyreus hyperbius hyperbius (Linnaeus) ツマグロヒョウモン (鱗翅目タテハチョウ科)

2004.6.1 水生植物園 1♂ KS ; 9.16 水生植物園 1♂ ; 10.1 水生植物園 1♀ MYO ; 10.7 水生植物園 1♀ MY

前回の記録は秋の1例であったが(久居, 2004), 今回は初夏から秋に数回目撃された(図4)。特に、雌雄とも水生植物園で見られることから、園内で繁殖する可能性もある。食餌植物はスミレ類で園内にはふつうに生育している。



図4 ツマグロヒョウモンの雌 (2004.10.1 吉井三恵子撮影)

Apatura metis substituta Butler コムラサキ (鱗翅目タテハチョウ科)

2004.7.2 水生植物園 MY

本園では長期間にわたって記録が途絶えていたが、2002年以後は、稀ではあるが毎年上記の場所で目撃されている。食餌植物のヤナギ類は園内にふつうに生育するので、今後繁殖しさらに定着する可能性もある。なお、東京23区内では近年ほとんどの地域で消滅した種であるが、葛飾区の水元公園では現在でも生息していると考えられる(葛飾区郷土と天文の博物館, 1999)。

Kaniska canace (Linnaeus) ルリタテハ (鱗翅目タテハチョウ科)

2004.10.14 正門前

Vanessa indica indica (Herbst) アカタテハ (鱗翅目タテハチョウ科)

2004.9.30 水生植物園 MYO

10年程前から毎年のように水生植物園や武蔵野植物園で目撃され、2002年には同所に生育するメヤブマオで幼虫の巣が多く観察されている (久居, 2004)。

Melanitis phedima oitensis Matsumura クロコノマチョウ (鱗翅目ジャノメチョウ科)

2004.5.14 サンショウオの沢 KS ; 7.2 水生植物園 MY ; 9.2 建物跡地 1♀ TS

最近は毎年のように目撃されるが、本園での越冬はまだ確認されていない。

Actias artemis (Bremer et Grey) オオミズアオ (鱗翅目ヤママユガ科)

2004.5.20 正門前 MY ; 5.25 1♀ KS

本種も個体数は少ないが、最近よく見られる。幼虫も確認されていることから (久居, 1999, 2004) , 園内で繁殖しているのは確実である。

Eumeta minuscula Butler チャミノガ (鱗翅目ミノガ科)

2004.5.20 正門前 TS

正門前のタブノキに付いていた幼虫の巣 (糞) の記録である。昨年も水生植物園で1個体見られている (久居, 2004)。

Eretes sticticus (Linnaeus) ハイイロゲンゴロウ (鞘翅目ゲンゴロウ科)

2004.9.9 水生植物園 1♂ KK

水生植物園の池で捕獲された。同所には本種と考えられるゲンゴロウ類が少なからず水中を遊泳しているのが観察されている。

Agabus japonicus Sharp マメゲンゴロウ (鞘翅目ゲンゴロウ科)

2004.12.10 武蔵野植物園小池 1♀

上記の池の補修作業をしていたおりに見つけられた。本種は分布が広く、普通種であるが水生昆虫類は目撃したり採集する機会が少ないので記録しておく。

Vespa ducalis Smith ヒメスズメバチ (膜翅目スズメバチ科)

2004.7.6 水生植物園

2003年に初めて記録され、今回はモンスズメバチなどとともに水生植物園に設置した調査用のトラップで捕獲された。

(2) その他

Gekko japonicus Duméril et Bibron ニホンヤモリ (トカゲ目ヤモリ科)

2004.8.16 インセクタリウム内; 12.17 インセクタリウム内

12.17 の記録は、インセクタリアム内で雑貨物入れとして使用していた中型ダンボール箱 (30×40×30cm) 内で越冬していた6個体の成体を観察したものである。

引用文献

- 千国安之輔. 1989. 写真・日本クモ類大図鑑. 308pp. 偕成社, 東京.
- 御勢久右衛門. 1980. 日本産カゲロウ類 6. 海洋と生物, 2 (1):76-79.
- 萩原信介・倉俣武男・藤本沙由美・安部代始子・近田文弘. 自然教育園の種子植物. 自然教育園報告, (34):1-83.
- 久居宣夫. 1979. 潜葉性小蛾類の生活史 (予報). 自然教育園報告, (9):25-32.
- 久居宣夫. 1987. スダジイに寄生するモグリチビガ科の一新種の生活史. 自然教育園報告, (18):15-19.
- 久居宣夫. 1993. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録 (5). 自然教育園報告, (24):1-8.
- 久居宣夫. 1999. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録 (11). 自然教育園報告, (30):17-24.
- 久居宣夫. 2004. 自然教育園の動物目録の追録と稀種動物の目撃記録 (14). 自然教育園報告, (35):1-13.
- 久居宣夫・矢野亮・久保田繁男. 2000. 皇居の蝶類. 国立科学博物館専報, (36):169-183.
- 石綿進一. 2002. 神奈川県のカゲロウ類. 神奈川虫報, (138):1-46. 神奈川昆虫談話会.
- 葛飾区郷土と天文の博物館. 1999. 特別展小合溜井 -水元公園の自然と文化-. 103pp.
- 国立科学博物館附属自然教育園. 1984. 国立科学博物館附属自然教育園動植物目録. 118pp.
- Kroko, H. 2004. A new species of the genus *Stigmella* Schrank (Lepidoptera, Nepticulidae) from Japan. Tinea, 18 (3):238-240.
- 松浦誠. 1995. [図説]社会性カリバチの生態と進化. 353pp. 北海道大学図書刊行会.
- 小野展嗣. 2000. 皇居の庭園と濠のクモ. 国立科学博物館専報, (35):127-145.
- 小野展嗣・新海栄一. 2001. 自然教育園のクモ類. 自然教育園報告, (33):173-200.
- 桜井信夫・久居宣夫・夏目節子. 1972. 自然教育園の蝶類について. 自然教育園報告, (3):27-33.
- 須田真一. 2002. 自然教育園トンボ類. 自然教育園報告, (34):107-130.
- 鶴田総一郎他. 1952. 国立自然教育園動物目録第1集昆虫綱. 国立自然教育園基礎資料, (1):1-42. 国立自然教育園.
- 八木沼健夫. 1974. クモの話. 212pp. 図鑑の北隆館, 東京.